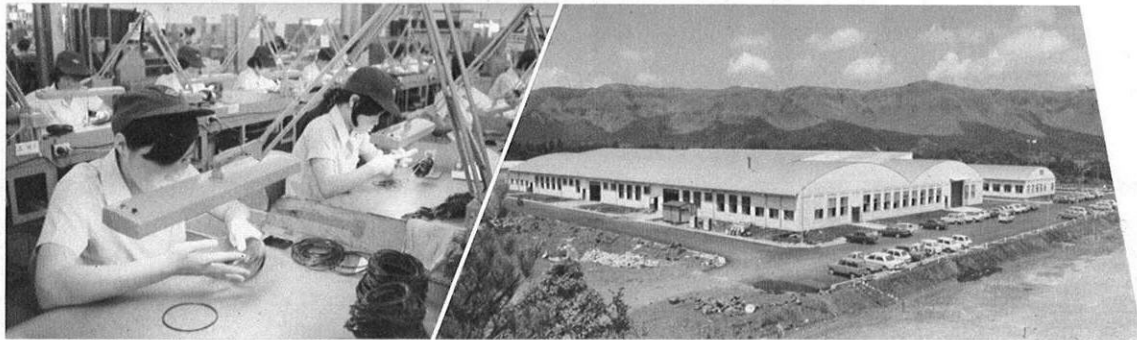
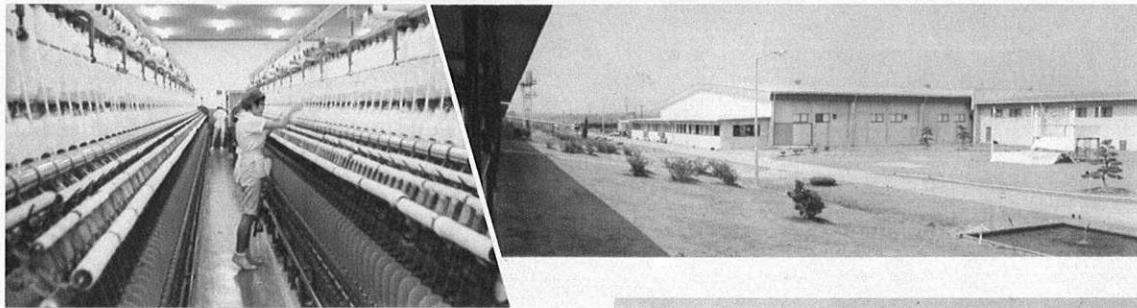


▲有明臨海部に進出した不二サッシと九州松下電器の各工場。



▲阿蘇町でことしの三月に操業開始した日本オイルシール工場。



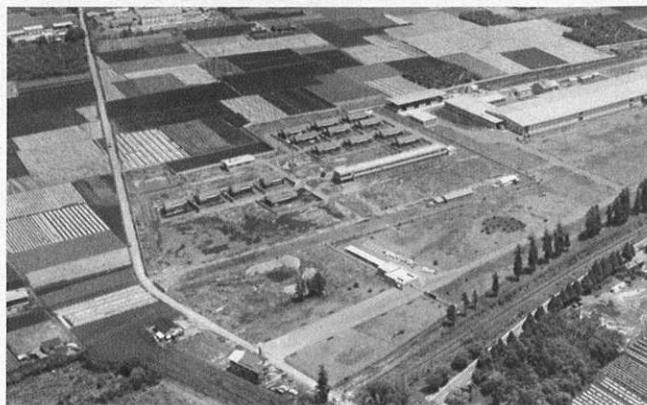
▲益城町にある興国紡織



▲熊本市にある三菱電機工場とその内部。



▲熊本市にある九州日本電気  
◀の工場。



▲大津街道すじの都築紡績工場。



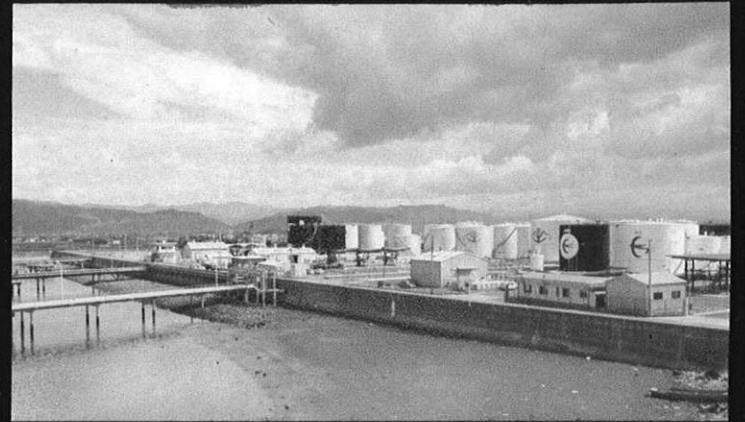
## 九州中央工業地帯

県経済の飛躍を約束する

有明・八代の臨海部と熊本周辺の内陸部を中心に、雇用力の高い高度加工工業の立地が活発に進められ、九州中央都市軸における中核的な工業地帯として、九州中央工業地帯の形成がはかられます。  
これによって、昭和六十年の工業出荷額は現在の八・一倍にあたる一兆四千七百億円に増加する見込みです。



▲八代臨海工業地帯では臨海部の造成がさらに進められる。



▲八代臨海部へ進出した石油コンビナート。



▲八代外港地区の建設も進み貿易船の出入りも活発になった。